

**COSMOエコ基金公募 助成金申請書 下書き用シート 【サンプル記入あり】**

こちらの下書き用シートの使用は任意です。必ずフォームから申請してください。また、内容はあくまで書き方の参考としてご参照ください。

記入項目	記入内容・選択肢	記入にあたっての説明
<b>1. 申請団体概要①</b>		
団体名	特定非営利活動法人コスモの森を守る会	・正式名称を法人格からご記入ください
法人格	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定非営利活動法人</li> <li>・ 認定特定非営利活動法人</li> <li>・ 一般社団法人</li> <li>・ 一般財団法人</li> <li>・ 公益社団法人</li> <li>・ 公益財団法人</li> <li>・ 任意団体</li> <li>・ その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ブルダウンから選択ください</li> <li>・ その他の場合は具体的に記述ください</li> </ul>
代表者名	森 太郎	
代表者役職	代表理事	
郵便番号	1058302	・ハイフンなしで記載ください
住所	東京都港区芝浦1-1-1	
電話番号	0356567110	
FAX番号	0356567171	
E-mail	<a href="mailto:info@cosmonomori.jp">info@cosmonomori.jp</a>	
ホームページURL	<a href="https://cosmonomori.jp">https://cosmonomori.jp</a>	
申請担当者氏名	林 道子	
担当者役職	マネージャー	
電話番号	0356567110	・ハイフンなしで記載ください
携帯番号	09098154510	・ハイフンなしで記載ください
※連絡が取れる時間帯	平日9:30-17:30	
FAX番号	0356567171	
E-mail	<a href="mailto:mhayashi@cosmonomori.jp">mhayashi@cosmonomori.jp</a>	
<b>2. 申請団体概要②</b>		
団体名の活動分野をチェックしてください （NPO法人として申請認証されている分野。また、NPO法人以外の団体については、団体の活動分野に合致したもの、もしくは「その他」に具体的に記入ください。）	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動</li> <li><input type="checkbox"/> (2) 社会教育の推進を図る活動</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (3) まちづくりの推進を図る活動</li> <li><input type="checkbox"/> (4) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (5) 環境の保全を図る活動</li> <li><input type="checkbox"/> (6) 災害救助活動</li> <li><input type="checkbox"/> (7) 地域安全活動</li> <li><input type="checkbox"/> (8) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動</li> <li><input type="checkbox"/> (9) 国際協力の活動</li> <li><input type="checkbox"/> (10) 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> (11) 子どもの健全育成を図る活動</li> <li><input type="checkbox"/> (12) 情報化社会の発展を図る活動</li> <li><input type="checkbox"/> (13) 科学技術の進歩を図る活動</li> <li><input type="checkbox"/> (14) 経済活動の活性化を図る活動</li> <li><input type="checkbox"/> (15) 職業能力開発や雇用機会拡充を支援する活動</li> <li><input type="checkbox"/> (16) 消費者の保護を図る活動</li> <li><input type="checkbox"/> (17) NPO法人等の運営や活動に関する支援の活動</li> <li><input type="checkbox"/> (18) その他 _____</li> </ul>	
活動開始年月日	2018年 6月 1日	
NPO法人認証取得日	2019年 4月 1日	
目的	森林保全活動を通じ、森林の役割についての認識を深めつつ、生物の多様性が維持される森林の保護育成を図るとともに、自然の役割を広く普及啓発し、持続可能な自然共生型社会の発展に寄与することを目的とする。	
団体の主たる活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 里山整備の実践</li> <li>・ ワークショップ等の開催を通じた環境教育の実践</li> <li>・ 里山の生物多様性調査</li> <li>・ 里山保全に関する情報発信</li> </ul>	
会員数（種類別）	個人会員 10名 法人会員 1団体	
スタッフ数（種類別）	団体の実働スタッフ数（事務局等） 5名 うち、本プロジェクトに従事するスタッフ数 4名	
COSMOエコ基金からの過去の支援実績	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有    _____年 ~ _____年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チェックボックスにチェックをいれてください</li> <li>・ 有を選択した場合は「過去に助成を受けた時期」の開始年度と終了年度をブルダウンから選択ください</li> </ul>
<b>3. 申請プロジェクトについて～全体事業計画</b>		
申請プロジェクトの活動分野	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 再生可能エネルギーの地産地消や普及促進に資する活動</li> <li><input type="checkbox"/> 生態系、森林保全などの自然環境保全活動や啓発活動</li> <li><input type="checkbox"/> 脱炭素志向の開かれた地域循環社会づくりに貢献する活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チェックボックスにチェックをいれてください</li> </ul>

申請プロジェクトの活動の種類	<input type="checkbox"/> 実践活動 <input checked="" type="checkbox"/> 調査研究活動 <input checked="" type="checkbox"/> 啓発活動 <input type="checkbox"/> その他 _____	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェックボックス</li> <li>・その他を選んだ場合は記入欄に記載ください</li> </ul>
申請事業年数 (3年間で申請された場合でも実績の評価は1年ごとに行います)	<input checked="" type="checkbox"/> 3カ年 <input type="checkbox"/> 単年度	
プロジェクトタイトル (採択後は事務局と協議のうえ変更する可能性もあります)	未来につなげよう 生物多様性の森づくり	
事業の背景	<p>日本は国土の約7割を森林が占める、世界有数の森林国である。その約4割は、戦後の復興に伴い、建築材目的で植えられた杉やヒノキの人工林（私有地）となっているが、海外からの安価な輸入材が流通するようになるにつれて国産木材の需要は激減、また、山村地域の人口減少や高齢化も相まって、現在、人工林の多くは管理が行き届かずに荒廃したまま放置されている状態にある。放置され荒れた森林は、生物多様性が低くなり、地球温暖化をもたらすCO2の吸収率も下がっている。さらに、太陽の光が届かず、木の根や土が弱くなって、土砂崩れなどの被害を引き起こす要因になっている。</p> <p>コスモの森を守る会の活動地域でも、まさにこの問題が健在化している。そこで、このプロジェクトでは、地域住民が自分たちの手で森を守るという主体性を生むきっかけづくりを、子ども、若者から親の世代までを巻き込んだ活動によって行っていきたい。里山の整備とその大切さを知る環境教育を通じて、持続可能な森と町づくりに取り組んでいく。</p>	
事業の目的・解決したい課題	<p>生物多様性を意識した森づくりには、多様性、生産性のバランスをとりながら森の管理を続けていくことが重要である。これまでに日本の各地で実践されてきている森づくりのノウハウも生かしつつ、主体的に里山づくりと維持に貢献できる人材を長い目で育てていく必要がある。そこで、まずは里山整備のノウハウを地元で示していくこと、また、子どもから親の世代までに森づくりの意味を啓発するための環境教育を行なっていくこと、特に中高生が自発的にテーマをもって学んでいく機会を、地元の学校と連携しながらつくっていくことを目的とする。</p>	
最終のゴールビジョン (本事業後に最終的にどのような状況達成したいか、数値目標も交えてご記入ください。)	<p>地域で里山を守り、その恩恵を受け継ぎながら、自然と共存するまちづくりができていくことをめざす。</p> <p>具体的には、地域住民による里山整備が毎年続けられており、2haに渡る里山が常によい状態で保たれているようにする。また、ワークショップや観察会が、参加したボランティアや学生たちが中心になって運営しているような状態を実現したいと考える。</p>	
事業完了時にめざす成果 (数値目標を交えてご記入ください。また、事業の成果をどのようにゴールビジョンに結びつけるかについても記載ください。単年度事業の場合は1年後、3年事業の場合は3年後をさします。)	<p>3年間の事業が完了時にめざす成果は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民による里山整備が約2haに渡るエリアで実行されていること。</li> <li>・3年間を通じて里山整備に参画してボランティアの人数が述べ30名程になっていること。</li> <li>・里山保全を学ぶワークショップに述べ30組の小学生と親世代が継続的に参加していること。</li> <li>・ワークショップに参加した地元中学・高校の生徒たちが述べ数で約30名に、同世代にこうした活動への共感を広げていること。</li> <li>・専門家の力を借りて森の植生・生態系を定期的に観察、レポートにまとめることによって、森林管理が生物多様性の保全の上で担う役割をわかりやすく示し、情報発信に役立てられるようになっていく。</li> <li>・動画素材ができあがり、HPやSNSのアクセス数が約2000PVと倍増している。</li> </ul>	
活動内容	<p>① 里山の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・荒れた放置林に人の手が入り、明るい森になっていくことで、地域の人々の安全を守り、共生する森の姿がみえてくる。</li> <li>・ボランティアの参加によって、地域で里山の整備を継続的に行なっていく人材が育っていくきっかけをつくること。</li> </ul> <p>② 里山再生を学ぶワークショップと観察会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップを通じて、間伐材の活用方法がさらに広がり、里山保全の恩恵についての理解が深まる。</li> <li>・観察会は、地元の複数の中学・高校と連携し、学生主体で森林保全の問題を学び、発信していく機会につなげていく。</li> </ul> <p>③ 里山の生物多様性調査と情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性のある森に生まれ変わらせるための現状と今後の課題が明らかになり、活動に活かせるようになる。</li> <li>・里山再生の様子を記録し、写真や動画にまとめ、HPやSNSで発信することで、里山保全に関心を持つ層を増やすことができる。</li> </ul>	<p>(上述の最終のゴールビジョンや事業完了時にめざす成果を実現するための活動の目的と内容、具体的な手法について250字以内で簡潔に記載してください。3年事業の場合は3年間を通じた全体計画を記載ください。)</p>
各年ごとの計画概要 (3年事業の場合、3年間を通じた計画について各年ごとのステップがわかるように記載してください。なお、1年目の詳細な計画については、次ページの「4. 初年度事業計画書」で記載していただきます。)		

1年目	<p>①里山の整備：森林専門家（やまびこの会）から作業手順を学びつつ、団体スタッフとボランティアで、地域で放置された森の下草刈りや間伐作業を進める。まずは年間15名のボランティアを集め、0.5haの整備を行っていく。</p> <p>②里山再生を学ぶワークショップと観察会：小学生向けに親子で里山再生について学ぶ機会をつくるため、間伐材を使った体験型ワークショップを1回行う。</p>	
2年目	<p>①里山の整備：1年目に身につけたノウハウをいかして間伐エリアを2haに広げ、また、間伐材でウッドデッキの散策路づくりに着手する。ボランティア登録数も年間でのべ30名をめざす。</p> <p>②里山再生を学ぶワークショップ：里山再生について学ぶための間伐材を使った体験型ワークショップを、1年目に引き続き小学生の親子向けに1回行うほか、中高生向けにも1回実施する。</p> <p>③里山の生物多様性調査と情報発信：現在の森の状態を把握、観察し、生物多様性の森を実現するための調査を行い、レポートにまとめる。</p>	
3年目	<p>①里山の整備：間伐エリアを2haに広げ、ウッドデッキの散策路も完成させる。</p> <p>②里山再生を学ぶワークショップと観察会：里山再生について学ぶための間伐材を使った体験型ワークショップを、2年目に引き続き小学生の親子向け、中高生向け、計2回行うほか、住民が広く参加できる観察会も行う。</p> <p>③里山の生物多様性調査と情報発信：森の状態や①②の活動を映像に撮り、専門家の監修協力のもと、動画を制作、SNSで発信する。</p>	

4. 申請プロジェクトについて～初年度事業計画書

初年度申請事業予算額	2,000,000 円	
初年度の事業実施計画 (活動項目ごとに、活動内容、KPI、実施スケジュールを記載ください。)		
活動① 活動項目名	里山の整備	
活動① 活動内容	団体スタッフ、専門家、およびボランティアで、地域で放置された森の下草刈りや間伐作業を行い、間伐材でウッドデッキの散策路を作る準備を行う。	
活動① KPI	・整備面積0.5ha ・ボランティア15名	
活動① 実施スケジュール	4月 ボランティア募集	・具体的な活動スケジュールを、実施月ごとに記入ください。
	5月 下草刈り・間伐作業	
	7月 下草刈り・間伐作業	
	10月 下草刈り・間伐作業	
	11月 下草刈り・間伐作業	
	12月 薪づくり・炭づくり	
活動② 活動項目名	里山再生を学ぶワークショップ	
活動② 活動内容	育苗や間伐材を使った体験型ワークショップを行い、親子で里山再生について学ぶ機会をつくる。	
活動② KPI	・ワークショップ参加者10組	
活動② 実施スケジュール	6月 参加者募集	
	8月 森づくりワークショップ	
活動③ 活動項目名		
活動③ 活動内容		
活動③ KPI		
活動③ 実施スケジュール		
期待される成果 (上記の活動を実施した結果によって得られる当該年度の成果について記載ください。)	<p>①里山の整備 ・荒れた放置林に人の手が入り、明るい森になっていくことで、地域の人々の安全を守り、共生する森の姿がみえてくる。 ・ボランティアの参加によって、地域で里山の整備を継続的に行なっていく人材が育っていくきっかけをつくることができる。</p> <p>②里山再生を学ぶ親子ワークショップ ワークショップを通じて、間伐材の活用方法がさらに広がり、里山保全の恩恵についての理解が深まる。</p>	
実施体制 (実施団体の職員、臨時雇用者、外部委託先、協力者等の氏名・所属・役割を記載してください。 ※なお、助成金精算の際には中間および期末の会計報告書との整合性を確認するため、事業に携わった関係者全員分を報告書に記載していただきます。報告書に記載のない関係者への支払いはできかねます。)		
(1) 実施団体	大山太郎（プロジェクト責任者）、林道子（プロジェクト担当者）、小川花子（プロジェクトアシスタント）、古池清美（プロジェクトアシスタント）	
(2) 外部委託先	やまびこの会（森林整備委託先）	
(3) 協力者	新藤栄（中明学園大学理学部教授）	